

令和3年度 下水道維持管理業務取組み発表会
発表概要

所属 矢部川浄化センター
発表タイトル オンライン施設見学の試行及び運用について
取組の目的 新型コロナウイルスの影響で、普及啓発活動の主な取組みである施設見学の回数がすべての浄化センターで激減している。昨年度、当センターでは、代替の取組みとして「施設見学オリジナル映像コンテンツの作成」を行ったが、作成した映像を視聴するという一方通行の取組みでは、見学者の理解が深まりにくいと予想される。 一方、昨年度から、全ての浄化センターにおいて、遠方にいながらも双方向かつリアルタイムに会議等を行えるオンライン会議アプリ（ZOOM）を使用している。 今般、当該アプリを使用して、見学先と浄化センターをつなぐことができれば、一方通行ではない普及啓発が可能となるのではないかと考え、このオンライン会議アプリを使用した施設見学である「オンライン施設見学」を試行し、運用を開始した。今回は、試行で得られた知見及び運用状況について紹介する。
取組内容 (1) 事前検討を行い、オンライン施設見学を試行した。 (2) 試行で得られた知見をもとに、オンライン施設見学の運用を開始した。
取組成果・効果 (1) 試行により得られた知見について ・ 「実際の施設の映像を見ることや会話や質問等の双方向のやりとりは見学者の理解が深まり大変良い。」との意見が、見学先からよせられた。 ・ 電波環境（無線 LAN 等）によっては、屋外施設の中継が中断してしまう。 ・ 10人以上の見学者との会話のやりとりは困難である。 (2) 運用状況について ・ 令和3年11月末までに11回実施し、見学者数は553人であった。 ・ オンライン施設見学を行った期間中、オリジナル映像コンテンツの再生回数が上昇 ・ 例年と比較して、見学一回あたりの見学者数の増加がみられた。 (3) その他 運用にあたって映像コンテンツのキャラクターの活用も実施した。